

経営比較分析表（令和5年度決算）

福島県いわき市 いわき市医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	500床以上	学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	28	対象	ド透1未訓方	救臨が感災地輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
306,714	64,219	非該当	非該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
679	-	15
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	6	700
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
580	-	580

■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

細分化・連絡強化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-

I 地域において担っている役割

救命救急センターを核とした救急医療の提供をはじめ、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター等の機能を発揮し、地域の中核病院として、福島県いわき医療圏はもとより、本県浜通り地区の高度急性期医療・政策医療を担うほか、臨床研修指定病院として、地域医療の将来を担う医療従事者の育成に取り組むなど、多様な役割を担っています。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

新型コロナウイルス感染症患者の受入れに係る病床確保料が減少となったため「①」は前年よりも減少しましたが、患者数及び医療収益の増に伴い「②」「③」「④」は改善傾向にあります。「⑤」は単価の高い手技の実施・疾患の受入れが多かったことや新たなものの取得により平均を上回りましたが、「⑥」は増加傾向にあるものの平均を下回っています。「⑦」は医療収益の増に伴って前年度より大きく改善しました。「⑧」は高額薬剤・診療材料の使用量の止まりが続いていますが、医療収益も増加したことから前年度の水準を維持し、平均並みとなりました。「⑨」は純利益を計上したことから改善しています。

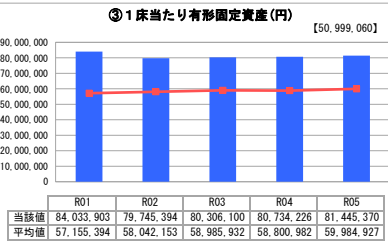
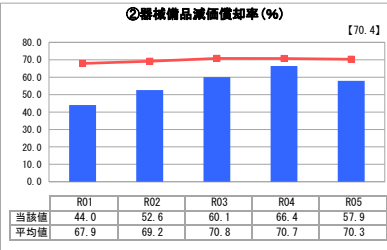
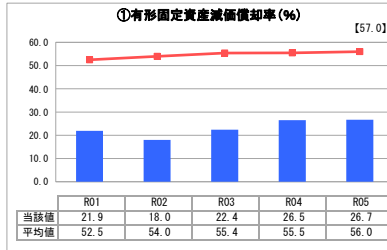
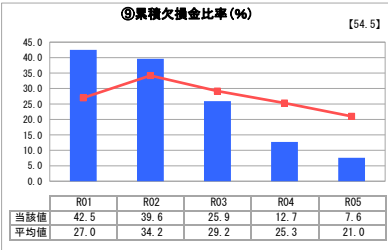
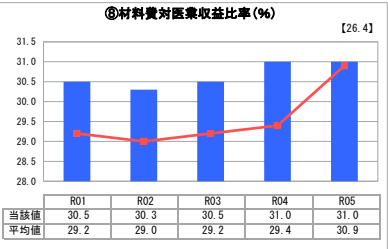
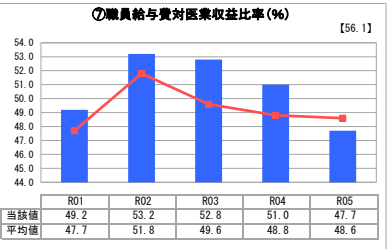
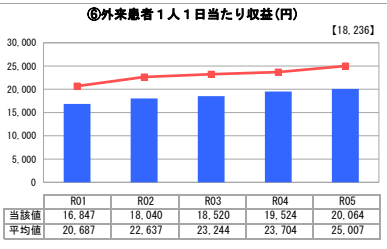
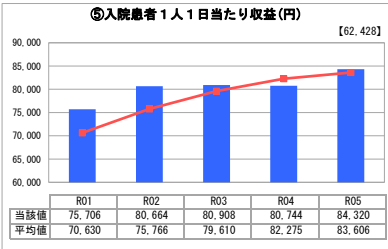
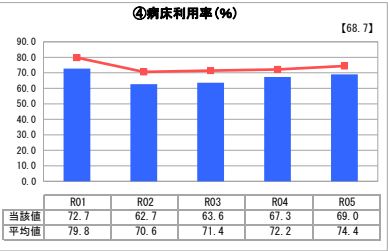
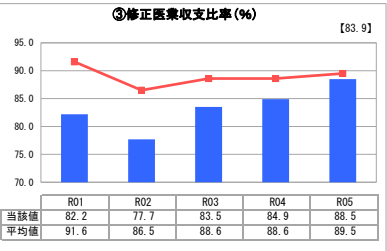
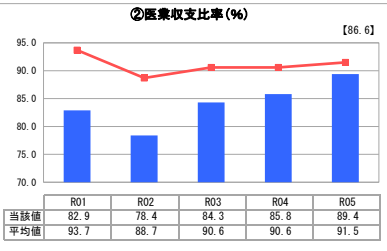
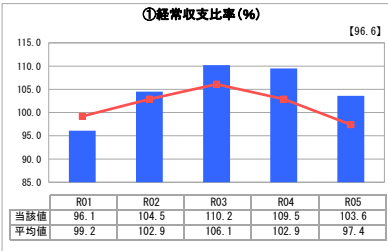
2. 老朽化の状況について

平成30年12月の新病院の開院と、これに伴う医療機器購入により、「①」は平均を大きく下回っています。「②」は令和4年度から令和5年度にかけて高額な器械備品を更新したことにより比率が低下しています。「③」は平均を大きく上回っています。今後、新病院開院時に整備した医療機器の更新時期が到来することから、計画的な整備に努めます。

全体総括

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行して受入れ病床の確保が不要となるなど正常化が進んだほか、一部診療科の患者数が増加したことなどから、患者数、医療収益ともに大きく増加しました。しかしながら、コロナ流行以前の患者数には届いていないこと、材料費は全国的にも増加傾向にあることといった課題もあることから、病床利用の効率化や支出の適正化など、収支を改善する取組が必要だと認識しています。今後も、地域医療連携の推進を図り、新規患者の受入れに努めるなど、医療収益の確保に取り組むほか、働き方改革の推進など業務効率化にも取り組みます。当センターは引き続き、高度急性期医療を担う地域の中核病院の責務として、持続可能な医療提供体制の確保を目指していきます。

1. 経営の健全性・効率性



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。